



熱中症予防について

佐藤 真

問 今年、学校活動で熱中症にかかった生徒の有無と対策は。

答 夏休み後半のサッカーの大会で生徒1名が病院で治療を受けた。主催者は対策を立てているが、出来るだけ午前中に試合が消化できるように、日程調整を依頼する。

問 今年のような酷暑では、今まで問題ないと思われた校内ルールが子ども達を危険な状態にすることも考えられるが、校内ルールの点検と見直しは。

答 5月の運動会で応援席にテントを設置する、プールサイドで給水タイムを設けるなど臨機応変に見直しを行っている。また、プールサイドに日陰がない学校に対しては、テントなどを設けるように指導する。

問 日本スポーツ協会が出した熱中症予防のため

の運動指針でも、WBGT(暑さ指数)で環境評価することが望ましいとされている。学校やひだかアリーナにWBGT測定装置を設置する予定は。

答 市内の学校にはグラウンドやプールでの活動にも使える輻射熱を測定できる測定装置が望ましいと考えており、配当予算で購入を進めている。また、ひだかアリーナでは、メインアリーナ前と

の運動指針でも、WBGT(暑さ指数)で環境評価することが望ましいとされている。学校やひだかアリーナにWBGT測定装置を設置した。



ひだかアリーナのWBGT測定装置

弓道場に利用者が暑さ指数を確認できるよう、WBGT測定装置を設置した。

米軍機の飛行について
問 市内住宅地の安全を確保するための県や国への働きかけは。

答 埼玉県基地対策協議会を通じて、部品落下事故を含むいかなる航空機事故の発生も防止するため、航空機の整備実施体制の拡充や、相当の年数を経過した航空機に対する特別な整備を実施するなど、飛行前の整備点検を充実強化する旨の要望をしている。

問 飛行ルートの変更を県、国に要請することについての見解は。

答 基地対策協議会での要望に盛り込まれていないが、騒音など生活環境への配慮、周辺住民に不安を与えない旨で、国に要望する。



平成の次の時代を生きる若者達のために

山田 一繁

問 少子高齢化人口減少社会が加速している。減少幅は日本全体で昨年40万人を超えた。日高市では平成27年5万7千249人を起点として33年後には37.8%減の3万5千634人になるものと予想。また日本の年間出生数は平成28年に初めて100万人を切った。日高市における出生率は1.08と全国平均1.44を下回り危機的な状況である。未婚化・晩婚化の進行は少子化の大きな要因の一つである。日本の婚姻数は昭和45年の103万件をピークとしてそれ以降減り続け、この50年間で約40万件、4割近く減少。しかし条件さえ整えば結婚したいと希望する人の割合は男女ともに80%を超える。結婚は個人の価値観に係わるものではあるが社会全体の問題と考える必要がある。出会いの場を作り、結婚

して住みたいまちづくりこそが行政に今、求められている使命。そこで結婚活動支援事業について、婚活イベントの具体的内容と特徴は。

答 日和田山でのハイキング等、市の魅力スポットを巡るコースで開催。バーベキューでは一緒に食材を焼いたり、食べたりのしながらコミュニケーションを図り、自然と会話が弾むような雰囲気の中で出会いを楽しめたいのと思われ。

問 県の事業S A I T A M A 出会いサポートセンターとの連携は。

答 県内24の市町村や16の民間企業等が運営主体となり、結婚を希望される方の出会いから交際、結婚までをサポートする。相談員による交際や結婚全般に関する相談を受けることもできる。2年間の利用登録料が日高

市民は1万800円に割引される。

郷土愛を育むプロモーション動画について
問 日高市をPRする動画制作の進捗状況は。

答 (株)ジェイコム社と契約を締結。市内各所を舞台としたストーリー性のある内容で、豊かな自然を中心に、市の魅力を存分に詰め込んだ動画とする考え。エキストラを交えた撮影を9月末から開始し、今年度末の完成を目指す。日高市を広くPRしていく。



婚活イベントのご案内